

[ものみの塔は反キリスト!]を証明する聖句発見!

[「…というのは、欺く者が多く世に出たからです。すなわち、イエス・キリストが肉体で来られたことを告白しない者たちです。それは欺く者、反キリストです。](ヨハネ第二 7 新世界訳)

ここで「肉体で来られた」の「来た(過去形)」と訳されている語のギリシャ語は、「エルコメノン」という語ですが、この語(これと同一の変化形)は、キリストの到来など、聖書中に全部で17箇所で使用されていますが、その幾つかを抜粋してみます。

マタイ3:16	来るのを
マタイ16:28	到来する
マタイ24:30	来る(脚注:「来る」。ギリ語, エルコメノン)
マタイ26:64	来る
マルコ13:26	来る(脚注:「来る」。ギリ語, エルコメノン)
マルコ134:62	来る
ルカ21:27	来る(脚注:「来る」。ギリ語, エルコメノン)
ヨハネ6:37	来ます
ヨハネ1012	来るのを
使徒19:4	(後に)来る(方)

このように、新世界訳では、この「エルコメノン」を、キリストの到来について記述している箇所で使用されている全ての場合に「来る、到来する」と訳しています。

なぜなら、この「エルコメノン」は現在形ですから当たり前です。

もう少し詳しく説明しますと、この«ἐρχόμενον»(エルコメノン)という語句の品詞、形態を「Morphology(ギリシャ語文法解析記号)」では、「V-PMP-ASM」と現されます。

この記号のそれぞれの意味は V動詞 - P現在形 M中動相 P分詞 - A対格 S単数 M男性という品詞の種類であることが分かります。

これからも分かるように、これは「現在形」なのです。

他の幾つかの例も見てください。

啓示の最後に語られているキリストの次の言葉の『来る』も現在形です。

『しかり、わたしは速やかに来る』 ἐρχομαι(ギリ語:エルコマイ) V-PMI 動詞 - 現在形  
「アーメン! 主イエスよ、来てください」 ἐρχου(ギリ語:エルコー) V-PMI 動詞 - 現在形

参考までに、現在形と過去形の違いの例を一つご紹介します。

[「…あなた方は神からの靈感の表現をこれによって知ることができます。すなわち、イエス・キリストが肉体で来られたことを告白する靈感の表現はすべて神から出ていますが、イエスについて告白しない靈感の表現はどれも神から出たものではありません。しかもこれは、来るであろうとあなた方が聞いていた反キリストの靈感の表現であり、今やそれはすでに世にあるのです。]

(ヨハネ第一 4:2 - 3)

2節 「来られた」 ἐλέλυτο(ギリ語:エレルソータ) V-2RAP 動詞 - 第二現在完了

3節 「来る」 ἐρχεται(ギリ語:エルケータイ) V-PMI 動詞 - 現在形

ヨハネ第二 7 節に似た内容の聖句ですが、こちらは「現在完了」です。ですから、こちらの方はかつて「イエスが肉体で来られた」ことを告白しない（認めない）ものは「神から出た者」ではないという意味になります。

ついでに、「過去形」の例も挙げておきましょう。

「水と血によって来た方，すなわちイエス・キリストです。水だけでなく，水と血とをもって[来られた]のです。」(ヨハネ第一 5:6)

「来た、来られた」 ἐλθών(ギリ語：エルソーン) V-2AAP 動詞 - 第二アオリスト(\*)

※「アオリスト」とは、ギリシャ語文法の時制形式の一。完了・継続・反復などの意味をもたず、単なる過去の動作・状態・出来事を表す。と説明されています。つまり簡単に言えば(普通の過去形)ということです。

以上のことから明らかですが、繰り返しになりますが、この「エルコメノン」(品詞、変化形が同一の語)が使用されているものの中で、キリストの到来に関連した記述の翻訳は全て、現在形で、文法通りに訳されているのに、何故かこのヨハネ第二 7 節の「エルコメノン」だけは、「来られた」と過去形で訳されているのです

なぜこうしたことが生じているのでしょうか。何らかの「ちょっとしたミス」が生じたのでしょうか。これからそれを検証してみたいと思います。

こうした事実は、原語で調べなければ、気付かない箇所です。

最近では、自分で原語を調べて研究することは勧められていないようですが、(エホバの証人の場合、「勧められていない」という表現は「禁じられている」という表現と同意語だというのが暗黙の了解です)しかし特別なことをしなくても、参照資料付き新世界訳の脚注を見るだけで、誰でも確認できます。

まず、ヨハネ第二 7 節の「来られた」という語に付されている脚注を参照しましょう。こう記されています。

『「来られた」。字義、「来る」。ギリ語，エルコメノン。キリストが過去に来られたことに言及する。それが過去に言及していることは、ヨハ三 3 節のギリシャ語分詞の場合と同じ。その箇所の、「来て」の脚注参照。』

この脚注の中で参照するよう勧められている、「ヨハネ第三 3 節」も引用して、参照も引いておきましょう。

「…兄弟たちが来て(\*)あなたが保っている真理について、すなわちあなたが真理のうちを歩みつづけていることを証ししてくれた時、わたしは大いに歓んだのです。」(ヨハネ第三 3)

(\*) 『「来て」。ギリ語，エルコメノーン。』 V-PMP-GPM 動詞 - 現在形

ヨハネ第二 7 節の脚注には「過去に来たことに言及している。」とありますが、この「エルコメノン」という語句自体は紛れもなく、「現在形」です。「字義、「来る。」と認めているとおりです。「…に言及している」という表現はこの「語句」の原語上の字義的な説明のように見えますが、実際は、この「文章(7 節)に」に関する訳者のコメントに過ぎません。

しかしヨハネ第二 7 節もヨハネ第三 3 節のエルコメノンも「過去に来たことに言及」していません。過去に来たことを述べているのなら「来た」という過去形で記すはずだからです。

これが「過去のこと」というのは単なる思い込みです。もしくは勝手な決めつけです。翻訳者の勝手な思い込みで、「これは現在形で書かれているけど過去のことを言ってるはずだから」と「過去形」で訳し、なおかつ脚注を付けて「これは過去への言及」と断定するのはルール違反でしょう。仮に、その表現が明らかに著者の思い違い、或いは底本としている写本に入り込んだ誤りであることが証明されているものであったとしても、翻訳者としては、原本の表現をそのまま、文法通りに忠実に訳した上で、必要と思われるなら、脚注を付して事実関係を示す情報を提示して読者の注意を喚起するというのが本筋ではないでしょうか。新世界訳のこうした脚注の付け方から言えば「翻訳上のねつ造」と言われる類に入るでしょう。

次に「ヨハネ第三 3節」について取り上げる前に、ギリシャ語の文法について、もうひとつ説明を付け加えておきますと、「ギリシャ語は 現在時制には、1通りの表現形式しかありませんし、現在進行形もありません。従ってギリシャ語の現在時制は、「～している。～し続けている」と訳すことも出来ます。そのどちらを採用するかは、前後の分脈の示す状況と訳者の判断によります。」とされています。

つまりギリシャ語の「現在形」には普通の現在形の意味の他に、今以てその状態にあるものを表現する場合もあるということです。たとえば、日本語では「先月より五キロも太った」と過去形で表現しますが、ギリシャ語で表現すると、(今現在もその状態にあるので)「現在形」が使われるということです。仮に上の例文をギリシャ語に訳した(動詞に現在形が使われている)文を日本語に訳す場合、日本語として自然だという理由で上のように(過去形を使って)訳すことはあり得るでしょうが、脚注を付けてこれが「現在形」であり字義的には「太り続けている」であることを示すべきでしょう。

ではヨハネ第二 7節を、もうひとつ可能な訳し方で訳すとどうなるでしょうか。「キリストが肉体で来ていることを告白…」となりますが、これでは、ヨハネがこの手紙を記した時点から言って事実と調和しません。すでに肉体で存在していないからです。ですから、こうした訳も適切ではないこととなります。内容から言って「過去から今現在に至るまで」を意味する事はないので、上の例文のように日本語として「過去形」の方が自然だからということも、言えません。どんな理由を付けようが「現在形」で訳す以外にない極めてシンプルな文章なのです。では将来のことなら、なぜ未来形でないのでしょうか。では同じ「来る」という語の基本形「エルコマイ」の未来形の使われ方の例をご紹介します。

「…空へ迎え上げられたこのイエスは、こうして、空に入って行くのをあなた方が見たのと同じ様で来られるでしょう」。(使徒 1:11) (ギリ語：エレウセータイ) V-FDI 動詞ー未来形  
このように未来形の場合は「…でしょう」という風に訳されます。  
これは予想される場合などにも使われます。  
しかし、冒頭で示したように、将来のことでも「わたしは来る！」というふうに、再臨などの記述には「現在形」が使われています。

さて今度は、ヨハネ第三 3節のエルコメノーンを進行形で訳すとすると、次のようになります。「兄弟たち」が来ていて(現在進行形)、話してくれた(過去)」という文章なので、全体の内容

としては、「話そのものは今そうしている」分けではないので、「過去のことと言及したもの」と言えなくはありませんが、この現在形の語句を「過去に来た」と過去形で説明するのは、不正確もしくは間違いです。

「来ている人が話した」というのと、「来た人が、話した」というのは、同じではありません。「翻訳」ですから、前後の文脈の流れで、不自然ではない表現が用いられることは当然あり得ますが、これを過去形に訳すのは明らかに間違いです。これは単なるミスではなく、意図的に、そのように翻訳されているようです。つまり誤訳ではなく偽訳、もしくは疑訳と表現できると思います。このように言う理由は、一つには次の点があります。

まず、まったく疑問なのが「ヨハネ第三 3節」の「来て」に原語の脚注を入れるどんな理由があるかということです。

殊更に重要な語句でしょうか。この語句に脚注が「必要である」と判断されるなら、100%全ての単語に「必要だ」と判断する事になるでしょう。

どう考えても、この脚注は、この聖句、この語句に必要なのではなく、ヨハネ第二 7節の「来られた」と過去形で訳した理由付けとして、どうしても必要なもので、脚注の参照先の脚注というワンクッションをおいて、それを示すために、「ヨハネ第三 3節」に脚注が付されていると考えられます。

内容的には関係のない聖句に、不必要かつ間違った脚注を付けて、それをさらに脚注の参照に引っ張って来るような小細工までして、ヨハネ第二 7節の「エルコメノン」だけは、どうしても過去形で訳さなければならない。何か深〜い理由でもあるに違いありません。

その理由は、続く節まで読むとはっきり判ります。改めて7節から、文法通り正しく引用してみましょう。

「というのは、欺く者が多く世に出たからです。すなわち、イエス・キリストが肉体で [来られる] ことを告白しない者たちです。

それは欺く者、反キリストです。わたしたちが働いて生み出したものを失わないよう、むしろ十分な報いを得られるよう、自分自身によく気をつけなさい。先走って、キリストの教えにとどまらない者は、だれも神を持っていません。この教えにとどまっている者は、父も子も持っているのです。『この教えを携えないであなた方のところにやって来る人がいれば、決して家に迎え入れてはなりませんし、あいさつのことばをかけてもなりません。』その人にあいさつのことばをかける者は、その邪悪な業にあずかることになるからです。(ヨハネ第二 1:7-11)

意味がつかめたでしょうか。

文法通りに訳すと、誰がどう読んでも、キリストの再臨の時に言及しているということになります。つまり、かつて来られて、天に挙げられた時と「同じ様」で来られる時のことを指していることが判ります。

「見よ、彼は雲と共に来る。そして、すべての目は彼を見るであろう。彼を刺し通した者たちも [見る]。』(啓示 1:7)

こうしてはっきりと聖書に記されていることを認めない人々についてヨハネ第二 7節は記しているのです。このことはエホバの証人にとってはゆゆしきことです。

「キリストは、見えない様で、天で臨在を開始された」というのが「ものみの塔」の正式な教理だからです。

「イエスの敵が肉眼でイエスを見るようになる」と考えるべきではありません。なぜなら、イエスの昇天後、使徒パウロが、イエスは今や「近づき難い光の中に住み」、「人はだれも見たことがなく、また見ることのできない」方であると述べているからです。(テモテ第一 6:16) ヨハネは明らかに、「認める」という意味で「見る」と言ったのです。それは、わたしたちが創造物を通して、目に見えない、神の特質を見る、つまり認めることができるのと同様です。(ローマ 1:20) 太陽が雲の後ろに入れば見えなくなるように、イエスも肉眼では見えないという意味で、『雲と共に来られる』のです。」「啓示の書の最高潮」4章 20 ページ 7 節

(臨在時に、人々はキリストを『肉眼』で見るという聖書的根拠を取り上げた詳細についてはファイル「68 キリストの臨在時に実際に目にする事柄とは」をご覧ください。)

キリストが「肉体」で来られることになる、全ては未だ何も成就しておらず、1914年臨在説や、「奴隷級説」などの、ものみの塔の根幹をなす教理が全滅することになるからです。

しかし、一方、キリストは「肉体で来られない」と声高に断言しているのですから、ヨハネ第二 7 節— 11 によると、その者は、「欺く者」であり、「反キリスト」であり、「先走って、キリストの教えに留まらない者」であり、「決して家に迎え入れたり、あいさつの言葉をかけてもならない者」であるからです。

この実体、正体がバレてしまっても、当然、「組織」は崩壊することになりますので、絶対にバレてはならないことなのです。

ですから、「自分で原語を調べたりするな」「頼むからしないでくれ」という悲痛な叫びを上げるのも無理からぬことなのです。

もっとも、ヨハネ第二 7 節の「エルコメノン」を過去形で訳しているのは、新世界訳だけでなく、新改訳や、新共同訳、口語訳なども過去形で訳しています。ですからこれは、伝統的な間違いと言えそうです。

文法通り正しく「現在形」で訳しているのは新約聖書翻訳委員会訳、岩波翻訳委員会訳、ジェームズ王欽定約などです。

「彼らはイエス・キリストが肉体において到来することを告白しない。」(岩波翻訳委員会訳)

“For many deceivers are entered into the world who confess not that Jesus Christ is come in the flesh This is a deceiver and an antichrist.” (KJV)

そして、入手できる翻訳の内、もう一つ「現在形」で翻訳している興味深いのが、「王国行間逐語訳」です。言わずと知れた「ものみの塔聖書冊子協会」発行の聖書で、「新世界訳」の元になっているものです。これは「逐語」訳ということもあり、比較的、原語に忠実に訳されています。

この親本から、どうしてあんな、やんちゃな不良息子の「新世界訳」が生まれることになったのか首をかしげたくなるような二冊です。

πλάνοι errant (ones)	ἐξῆλθον went out	εἰς into	τὸν the	κόσμον, world,	deceivers have gone forth into the world,
οἱ the (ones)	μὴ not	ὁμολογοῦντες confessing	Ἰησοῦν Jesus	Χριστὸν Christ	persons not confessing Jesus Christ as <u>com-</u>
<u>ἐρχόμενον</u> coming	ἐν σαρκί· in flesh;	οὗτός ἐστιν this is	ὁ the	πλάνος errant (one)	<u>ing</u> in the flesh. This is the deceiver and the antichrist.
καὶ ὁ and the	ἀντίχριστος. antichrist.				8 Look out for your-

他ならぬ、この聖書によってもものみの塔が「反キリスト」であると証明され、暴露されてしまうとは皮肉なものです。